＜報道関係者各位＞

2013年6月21日

PRESS RELEASE

株式会社　留学ジャーナル
【2013年夏休み留学(7/1～9/30)動向」】を発表
～2013年の夏休み留学申込者数は過去10年で最多の見込み～

株式会社留学ジャーナル（東京都新宿区信濃町34 JR信濃町ビル6F、代表取締役社長：安藝　清）は、今夏の留学申込動向調査、夏の留学を希望する大学生の意識調査を実施いたしましたので、以下のようにご報告します。

当調査は、5月末時点における、2013年7月～9月に8週間以内の短期留学プログラムでの出発予定者データ、および、2013年4月2日～6月2日に、夏の短期留学の相談を目的として全国の留学ジャーナルカウンセリングセンター（東京・大阪・名古屋・福岡・岡山）を訪れた大学生に任意のアンケート調査を行なった結果をもとにしております。

【夏の留学申込者動向】

・夏休み留学の出発予定者は対前年21％増加（2013年5月末時点）

・留学期間：4週間（34％）が最も多く、次に2週間（28％）、3週間（20％）が続く

・留学期間：大学生は4週間、社会人は1週間、中高生は2週間の留学が最も多い

・人気の都市：1位「バンクーバー（カナダ）」、2位「トロント（カナダ）」、3位「ロンドン（イギリス）」

【夏の留学を希望している大学生への意識調査】

・留学希望：希望の留学期間は4週間程度が5割、留学したい都市1位はバンクーバー（カナダ）

・大学1年生の3割が「親の勧め」を留学のきっかけと回答

・目的の第1位は「日常会話レベルの英語力を身につける」。次に「視野を広げる」「海外生活の体験」

・留学目的に男女差。男性「視野を広げる」、女性「日常会話レベルの英語力を身につける」

・夏休み留学希望者のうち、「将来的に長期留学を希望している」のは31%で、前年に比べて7%増加

【夏の留学を希望している大学生における企業のグローバル化の影響】

・93%が「今回の留学が今後のキャリアに役立つと思う」と回答

・75%が、企業のグローバル化の流れが今夏の留学に「影響あり」と回答

・今回の留学に特に影響した社会の動きは「企業の海外進出」

・留学がしやすくなるための改善策は「大学卒業後3年以内は新卒扱いとなること」「留学経験者枠があること」

【　留学ジャーナルとは　】

株式会社留学ジャーナルは42年にわたる信頼と実績を誇る留学総合コンサルティング企業として、これまでに17万人をこえる留学生を海外に送り出しています。圧倒的な情報量を誇る留学のバイブル『留学ジャーナル』の発行をはじめ、各国大使館、教育団体等の賛同・協力のもと、留学フェアやイベントを毎年開催するなど、42年にわたり培ったネットワークと最新情報を生かし、全国5ヵ所のカウンセリングセンター（東京、大阪、名古屋、福岡、岡山）を拠点に、留学カウンセリングから帰国後の就職サポートまで総合的な留学コンサルティング事業を展開しています。

本件に関するお問合せ・取材のお申し込み

株式会社 留学ジャーナル
広報担当：大塚・原田
TEL：（050）3033-4122
FAX：（03）5312-4469
E-mail：pr@ryugaku.co.jp
URL：http//www.ryugaku.co.jp

【別紙】

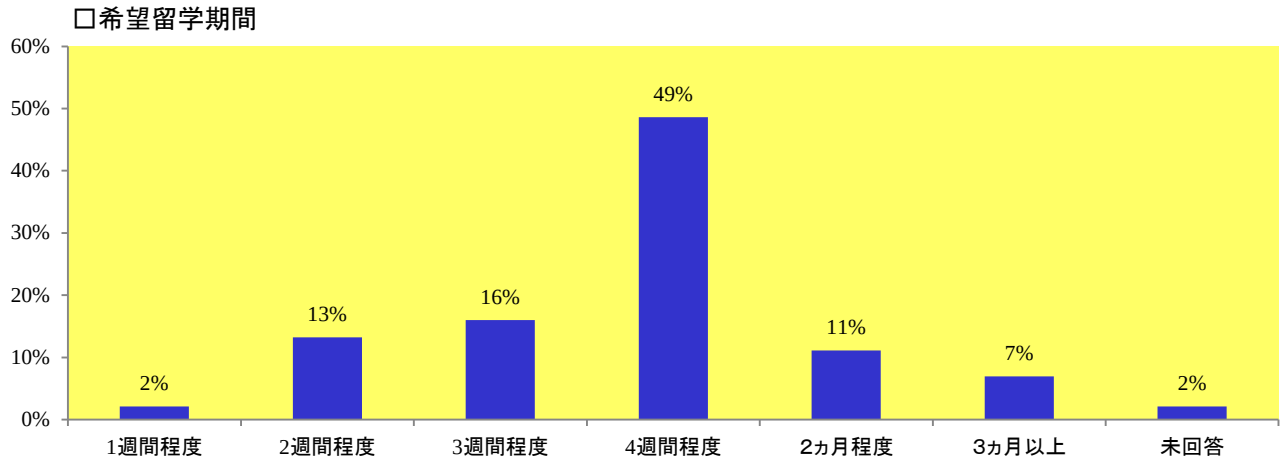
ここに掲載いたしました内容は抜粋版でございます。より詳しく取りまとめました完全版もご用意しておりますので、ご覧になりたい方はお問い合わせください。

※こちらのデータを利用、転載する際には、必ず「留学ジャーナル」とクレジットをいれ、ご一報くださいますよう、お願いいたします。

※大変恐縮ですが、留学業従事者、および弊社にとって競合と考えられる方のご利用はお断りさせていただきますことを、あらかじめご了承ください。

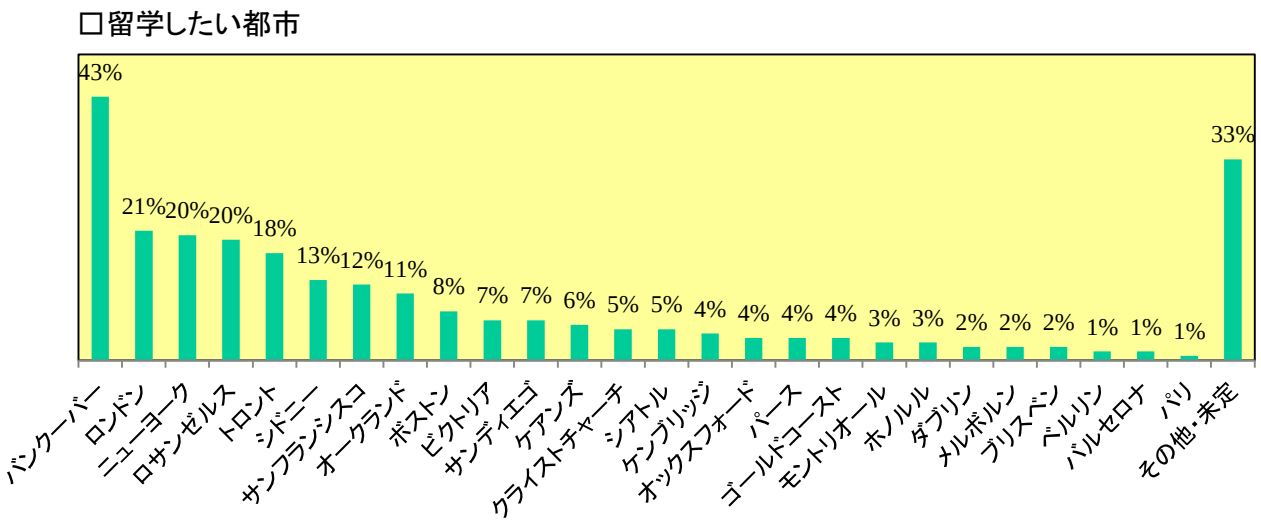
当データは、2013年4月2日～6月2日に、夏の短期留学の相談を目的として全国の留学ジャーナルカウンセリングセンター（東京・大阪・名古屋・福岡・岡山）を訪れた大学生に任意のアンケート調査を行なった結果の抜粋です。

留学希望：希望の留学期間は4週間程度が5割



前年と同様に、4週間程度と回答した割合が49%と最も高かった。次に割合が高かったのが3週間程度で、夏の留学については、夏休みの半分の期間である約1ヵ月の留学を希望している人が多かった。

留学したい都市1位はバンクーバー（カナダ）



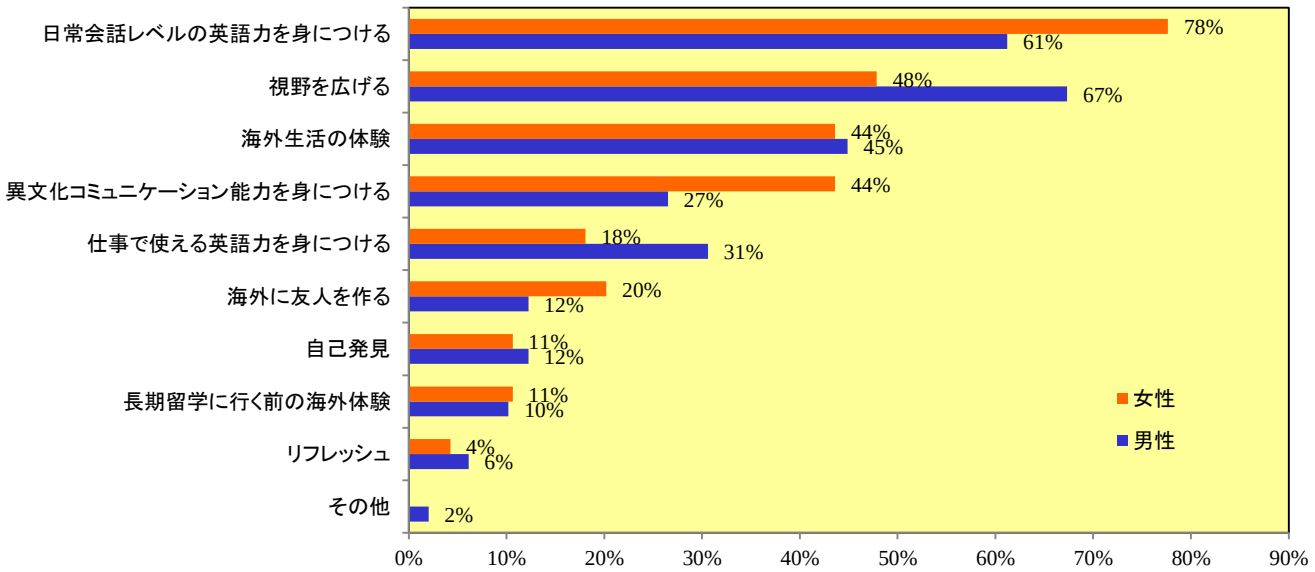
留学したい国としてはアメリカが最も人気が高かったが、都市として圧倒的に人気が高かったのは、カナダのバンクーバーで、約4割が回答。続いてロンドン、ニューヨークと、大都市の人気が高い。

【別紙】

当データは、2013年4月2日～6月2日に、夏の短期留学の相談を目的として全国の留学ジャーナルカウンセリングセンター（東京・大阪・名古屋・福岡・岡山）を訪れた大学生に任意のアンケート調査を行なった結果の抜粋です。

留学目的の第1位は「日常会話レベルの英語力を身につける」。次に「視野を広げる」「海外生活の体験」

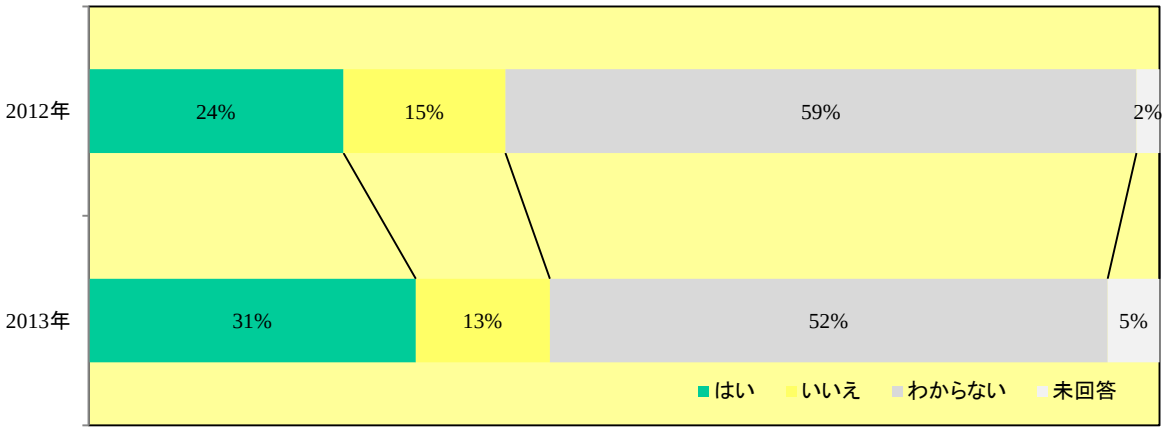
□留学の目的



目的の第一位は「日常会話レベルの英語力を身につける」。次に「視野を広げる」「海外生活の体験」が続く。男女別に見ると、割合に差があるものが多く見られた。男性では「視野を広げる」が67%で、目的の第一位になったのに対して、女性は48%。また、女性では「異文化コミュニケーション能力を身につける」が44%に対して、男性は27%であった。

夏休み留学希望者のうち、「将来的に長期留学を希望している」のは31%で、前年に比べて7%増加

□今回の留学の後、長期留学をしたいと思いますか？



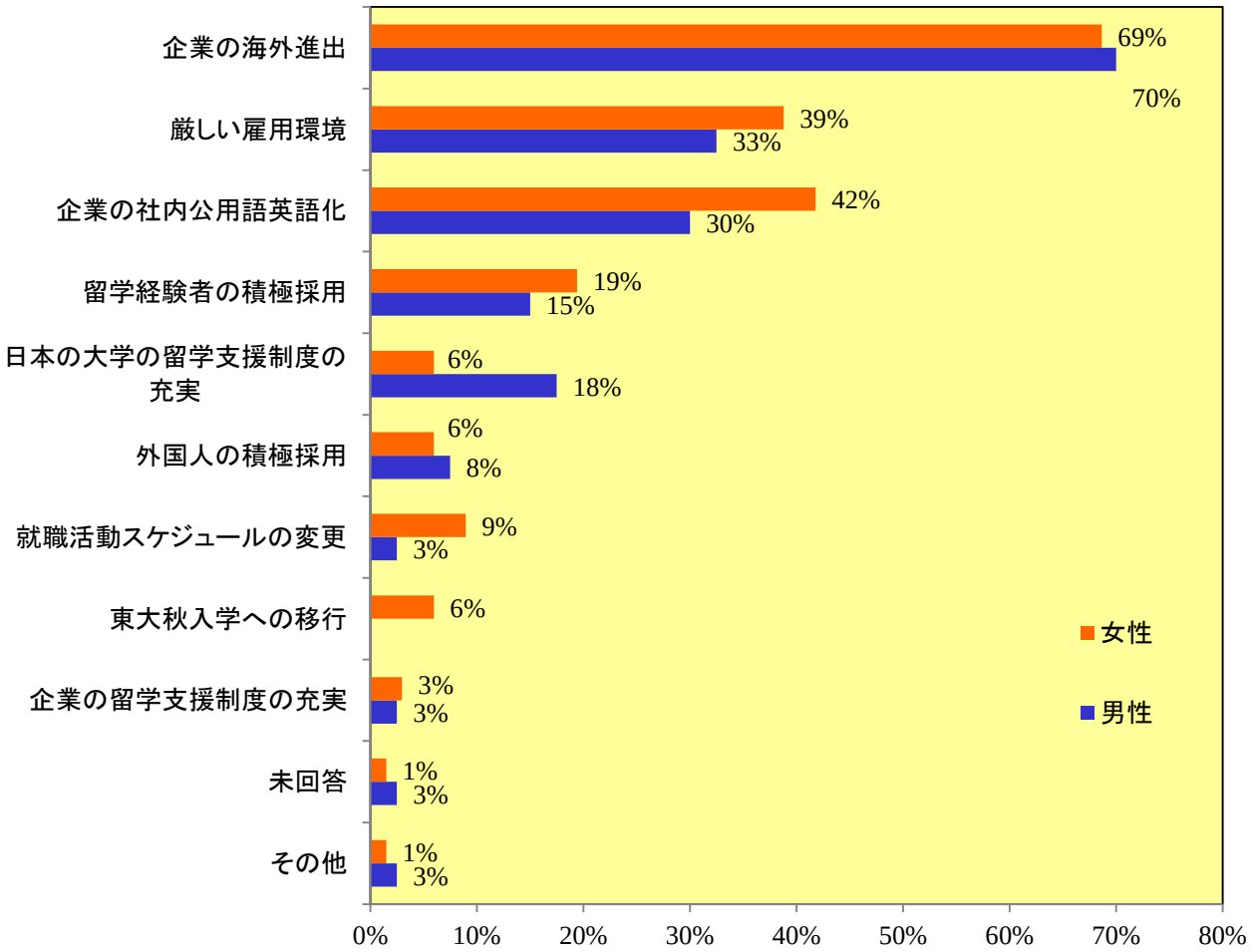
「はい」と答えたのは31%で、前年の24%から7%の増加。「いいえ」が12%、半数が「わからない」と回答している。学年別では、「はい」と答えた人が最も多かったのは1年生で、50%。2年生は前年26%だったのが、今回は46%と大幅に割合が増えた。また、3年生も前年15%から21%と増加している。

【別紙】

当データは、2013年4月2日～6月2日に、夏の短期留学の相談を目的として全国の留学ジャーナルカウンセリングセンター（東京・大阪・名古屋・福岡・岡山）を訪れた大学生に任意のアンケート調査を行なった結果の抜粋です。

⑤今回の留学に特に影響した社会の動きは「企業の海外進出」

□特に今回の留学に影響を与えたことはなんですか？



男女ともに、「企業の海外進出」と回答した割合が最も高かった。特に男女差が表れた回答は「企業の社内公用語英語化」（女性42%、男性30%）や「日本の大学の留学支援制度の充実」（女性6%、男性18%）、「就職活動スケジュールの変更」（女性9 % 、男性3%）などであった。また、「日本の大学の留学支援制度の充実」に関しては、前年と比較して、男性の回答割合は3.2%から18%、「就職活動スケジュールの変更」に関しては、女性が3.3%から9%、男性が1.6%から3%と、回答数は少ないものの、割合は大幅に上がっている。